

「JR只見線を活用した観光施策」

会津大学短期大学部 高橋ゼミ

大学参加者名	伊藤大翔・庄子千絵理・高橋桃子・竹田菜々子（短大2年生） 高橋延昌（教授）
参加自治体	【参加自治体】会津若松市・会津美里町・会津坂下町・柳津町・三島町・金山町・只見町 【令和4年度中心参加自治体】 金山町・只見町
(1)調査研究の課題・背景	只見線全線営業再開は、会津川口～只見駅間を上下分離方式による運行を行うものであり、福島県及び沿線自治体による費用負担となる。新潟・福島豪雨災害によって被災する前は主に生活路線であった只見線であるが、2022年10月1日に全線営業再開した只見線は地域に経済効果をもたらす観光路線としても期待されている。
(2)令和4年度調査研究活動内容	全線再開後の地域活性化を図るための観光施策等の只見線利活用について調査研究を行った。再開後のブームにより10月から11月ごろ日中は「首都圏の通勤ラッシュ並みの混雑」となったが、地域における観光の目玉となる只見線の全線復旧を一過性のブームとして終わらせず、只見線を通じて地域がこれからも持続的に発展していくためのケーススタディの一つとなるべく学生ならではの提案に結びつけるような活動をおこなった。
(3)令和4年度時点の結果	結果として「A.オリジナル起き上がり小法師」「B.只見線DXすごろく」「C.只見線記念ドーナツ」という3つの成果に結び付け、実証的に考察した。
(4)提言または今後の展開	只見線が地域のシンボルであることは確かであるが、現実的には只見線全線の乗り通しや日帰り往復は困難である場合が多く、運行数が増える可能性も少ないと言わざるを得ない。乗車の利便性は決して高くない。しかしながら、学生が実際につくって提案したような新たなコミュニケーションツール（デザイン）のようなものを活かすことにより当該地域への愛着や理解がすすむことも考えられる。